2024年産 大豆「エンレイ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】団地化率：80%以上　収量：200kg/10a　品質：1～3等比率と大粒比率の向上　「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月	5月	6月			7月			8月			9月			10月		11月
旬別		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	

主な作業

播種 | 出芽・苗立 | 生育期 | 開花期 | 着莢始め | 莢伸長期 | 子実肥大期 | 黄葉期 | 落葉・成熟期

- 基幹排水
- 土づくり
- 除草剤散布 播種 耕起・整地 施肥
- 培土
  - 1回目培土：播種20～25日後（本葉2～3葉期）
  - 2回目培土：播種30～35日後（本葉4～5葉期）
- 防除（随時）ウコンノメイガ：葉巻が見られたら防除 1株に6個以上の
- （1回目）基本防除
- （2回目）基本防除
- 雑草の抜き取り：タデ類等大きな雑草や青立ち株を除去
- 収穫：適期収穫で、しわ粒や汚損粒にしない 圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始
- 次年度作付圃場の準備

ハスモンヨトウ

葉巻とウコンノメイガ幼虫

イチモンジカメムシ

紫斑病

栽培のポイント

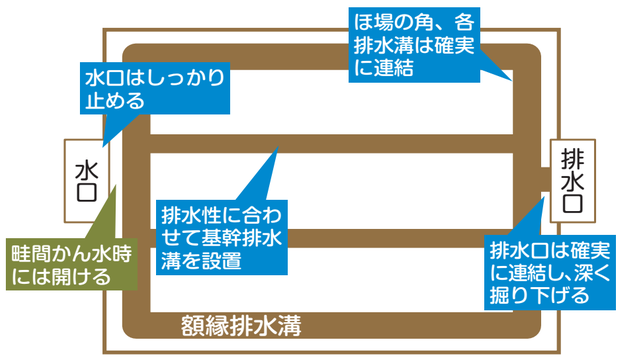
①排水対策を徹底
★②石灰質資材や基肥の適量施用
★③種子消毒の実施
★④適正な播種作業で苗立本数を確保
★⑤雑草防除（除草剤散布）
⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施
★⑦開花期～9月上旬は早めの畦間かん水
★⑧病害虫防除の徹底
⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始

莢先熟が発生した生産者は★の対策を徹底しましょう！

畦間かん水
開花期以降晴天が続いたら実施

① 早期排水対策

地表排水が最も重要



排水対策の効果

- 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- 除草剤の効果が向上
- 根量が増え、根粒菌も増える
- 病害（茎疫病、黒根腐病）の発生抑制

② 土づくりと施肥

★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。

●大豆栽培に適するpH6.0～6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
●地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10a当たり施肥量

資材名等		施肥量
貝化石（粒）		150～200kg
発酵ケイフン		100～200kg
BB基肥084 (N:P:K＝10:18:24)	普通田	20kg
	砂壌土、低地力田	30kg
	麦跡	上記＋硫安10kg

③ 種子消毒（病害虫防除の徹底）

対象病害虫	使用薬剤	処理方法	
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理	乾燥種子1kg当たり原液8mL

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

★極端に早い播種を避ける。

●一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気に行う。

※作業手順（施肥同時播種の場合）

耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ **播種** ▶ 作溝

●適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進！

★苗立数を確保する。

【播種量の目安】条間80cm「エンレイ」大粒種子（百粒重33.4gの場合）

目皿	播種時期	播種量目安 (kg/10a)	目標栽植本数 (本/10a)	スプロケット 目皿側	スプロケット 車輪側
B－2	5月6半旬～6月上旬	5.2～5.9	14,000～16,000	10～11	13
	6月中旬～（麦跡等）	5.9～6.7	16,000～18,000	9～10	14
B－22	6月上旬	5.2～5.9	14,000～16,000	14	9～10
	6月中旬	5.9～6.7	16,000～18,000	13	10

※B－22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。　※播種精度95%苗立数90%の場合

⑤ 雑草防除（除草剤散布）

農薬使用基準を守りましょう。

散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後出芽前	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4～6kg
		サターンバアロ乳剤	600～1,000mL（水70～100Lで希釈）
	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科・アブラナ科を除く）	トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg
		トレファノサイド乳剤	200～300mL（水100Lで希釈）
	一年生雑草	ラクサー乳剤	400～800mL（水100Lで希釈）
		プロールプラス乳剤	400～600mL（水100Lで希釈）
雑草生育期（イネ科雑草の3～10葉期）（収穫30日前まで）	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ポルトフロアブル	200～300mL（水100Lで希釈）
大豆2葉期～開花前（収穫45日前まで）	一年生雑草（イネ科を除く）	大豆バサグラン液剤	100～150mL（水100Lで希釈）
本葉3葉期以降 雑草生育期（草丈15cm以下） 雑草茎葉兼土壌散布（畦間・株間処理）（収穫30日前まで）	一年生雑草	ロロックス	100～200g（水70～150Lで希釈）
大豆5葉期以降雑草生育期（畦間・株間処理）（収穫28日前まで）	一年生雑草	バスタ液剤	300～500mL（水100～150Lで希釈）
雑草生育期（畦間処理）（収穫28日前まで）	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500mL（水100～150Lで希釈）

※ロロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

帰化雑草の防除体系

イヌホオズキなど

大豆生育ステージ：播種 6/1(0)▼ ラクサー等(0)▲ ／ 2葉期 6/20(+19)△ 1回目培土(+19～25) ／ 3葉期 6/25(+24)▲ ロロックス ／ 4葉期 7/1(+30)△ 2回目培土(+30～34) ／ 5葉期 7/6(+35)▲ バスタ 7/6～(+35～)

※1回目培土で残った株間の雑草をロロックスで早期に防除することで効果的な体系防除が可能
（ロロックス：使用量 100～200g(水70～150ℓで希釈) 使用方法 畦間・株間処理）

帰化アサガオ類

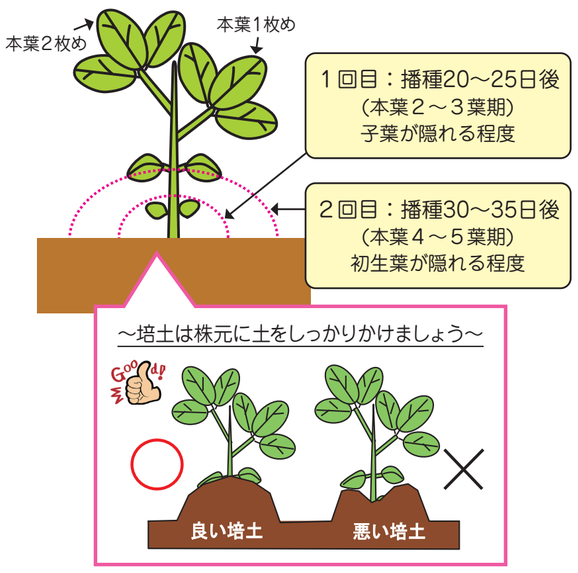
大豆生育ステージ：播種 6/1(0)▼ サターンバアロ等(0)▲ ／ 2葉期 6/20(+19)▲ 大豆バサグラン(+19～23) ／ 1回目培土(+20～25)△ ／ 2回目培土(+30～34)△ ／ 4葉期 7/1(+30)△ ／ 5葉期 7/6(+35)▲ バスタ 7/6～(+35～)

※バスタ散布後も発生状況に応じて追加防除や手取り除草を実施する

注）括弧内の数字は播種後日数

⑥ 的確な培土

●晴れ間を逃さず**確実に2回**の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。



⑦ 畦間かん水（開花期～9月上旬）

★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。

●開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
●圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

開花時期

畦間かん水

⑧ 病害虫防除

農薬使用基準を守りましょう。

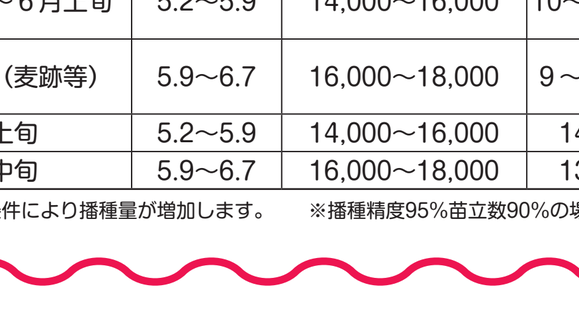
★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

		防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	粉剤体系	8月上旬	紫斑病、茎疫病	Zボルドー粉剤DL	3kg
			カメムシ類	スミチオン粉剤3DL	4kg
		8月下旬	紫斑病 カメムシ類	トライトレボン粉剤DL	3～4kg
	液剤体系	8月上旬	紫斑病	トライフロアブル	1000倍 150L
			カメムシ類	ダントツフロアブル	2500倍 150L
		8月下旬	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボンSE	1000倍 150L
随時防除		7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ カメムシ類	ダントツH粉剤DL	4kg
				プレバソンフロアブル5[1]	4000倍 150L
		8月中旬～9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL	4kg
				トレボン乳剤	1000倍 150L

1）プレバソンフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

⑨ 収穫作業

〈刈取り適期の目安〉


莢色：　緑　→　黄　→　褐色

圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

◎汚損粒は絶対に出さない。

●青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
●露がなくなってから刈取る（午前10時～午後4時まで）。
●刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

●額縁排水溝の設置や心土破砕を行う。
●緑肥作物の作付により地力増進を図る。
●連作を避け、団地化を進める。

※ 安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。